

教育
学校教育研究科
(別添資料)

平成28年6月
兵庫教育大学

目 次

(別添資料1) 教員養成スタンダード(大学院)(抜粋)	1
(別添資料2) 教員養成スタンダード(大学院)自己評価票	3
(別添資料3) 教職アドバンスプログラム概要	8
(別添資料4) ラーニングコモンズの設置状況	11
(別添資料5) 授業内容や卒業研究の指導内容についての満足度	12
(別添資料6) 教職キャリア開発センターの開講講座例	13
(別添資料7) 卒業生・修了生調査(H24~H26) —解析報告—	14

基礎部分のスタンダード

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

基礎部分のスタンダード（幼年教育）

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
子ども理解に基づく指導と学級経営	6	子どもの発達についての知見を踏まえて一人ひとりの子どもにかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団の育成ができる
	8	子どもの多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
保育の展開と指導	9	専門的な知見をもとに保育内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	保育方法を分析する幅広い知識を有し、子どもの遊びや育ちを支援することができる
	11	長期的な発達の見通しと子どもの実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を保育研究に生かすことができる
	13	保育の評価に関する多面的な理解をもとに、評価を指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で園内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

専門性の実現に向けたスタンダード

専攻	コース	観点	スタンダード
人間発達教育	教育コミュニケーション	探究力	人間、社会、教育について、広い視野から、根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している
		実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら、組織変革のために提言できる実践力を有している
		研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している
	幼年教育・発達支援	専門性・研究	乳幼児教育や子育て支援に関する専門的な知見と高度な研究力を持ち、実践の改善に取り組むことができる
		子育て支援	未就園児を含む親子の活動に対する援助と環境構成を適切に行うとともに、地域や保護者の実態に配慮した子育ての支援ができる
		連携・協働	保護者や地域との連携を図りながら、他の教師と協働して保育の改善に取り組むことができる
	学校心理・学校健康教育・発達支援	学校心理	学校における子どもの支援に役立つ心理学的な理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		発達支援	子どもの発達に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		学校健康教育	学校保健、学校安全、健康教育に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導力を身につけている
	臨床心理学	臨床心理学理論	臨床心理学の支援理論と技術とを知り、学校現場を初めとする各臨床現場での心理士としてこれらの知識・技術を学び続けることのできる専門職者としての探究力をもっている
		臨床心理学実践	学校現場を初めとする各臨床現場での臨床心理サービスに関わる知見と技術を他者と共有し、高め続けることのできる研究・実践力をもっている
		理論と実践の融合	臨床心理学に基づく支援の理論、および支援技術の実習を通じて、学校現場を初めとする各臨床現場で臨床心理学的支援の方法を開発・研究・省察していくことができる

専攻	コース	観点	スタンダード	
特別支援教育	障害科学	障害児・者の教育・福祉と支援における連携	障害児・者の教育・福祉に関する理念や制度を知り、多様な学問領域からのアプローチを理解し、多領域の連携・協働による支援について重要性を理解し探究し続けることができる	
		障害理解と啓発	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、発達障害、重度重複障害等の多様な障害について、特性の理解を深め、また、障害児・者の周囲に対して理解を促すことができる	
		障害児・者、保護者、学級・学校への支援	障害児・者、保護者、学校・学級から地域の支援制度といった、個人レベルから社会レベルに至る様々な次元で、共生社会形成・インクルーシブ教育構築に向けた包括的・体系的支援の必要性を理解し、計画、実践、評価していくことができる	
	発達障害支援実践	コミュニケーションと校内体制	教員間コミュニケーションを促す基本スキルを身につけ、キャリアステージに応じて校内や地域の連携・協働を推進することができる	
		個別のニーズと指導計画	個別のニーズを見極め、支援・配慮の目標設定を行い、手立て・工夫を取り入れた指導計画を立案して、その結果を評価できる	
		通常の学級と特別支援教育	特別支援教育的観点から、通常の学級における授業デザインや学級経営の工夫を考えることができる	
教科教育実践開発	言語系教育	教科内容	国語・英語を学ぶ楽しさを知り国語・英語を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	国語・英語の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	国語・英語の教育内容に関する高度な専門的知識と国語・英語の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	社会系教育	教科内容	社会系教科の内容と社会系教科の背景にある専門諸科学について高い理解力をもっている	
		教科教育	社会系教科の教科教育について高い実践力をもっている	
		学び続けることができる探究力	修士論文の作成過程において研究の方法を学び、社会系教科の授業力の向上のために強靱な探究力をもって学び続けることができる	
	理数系教育	教科内容	数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	芸術系教育	教科内容	音楽・美術を学ぶ楽しさを知り、教員として音楽・美術を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	教員として、音楽、図画工作・美術の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	音楽・美術の教育内容に関する高度な専門的知識と音楽、図画工作・美術の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	生活・健康・情報系教育	教科内容	保健体育、技術・家庭、工業、情報に関わる高度な専門的知識と技能を有するとともにそれらを学ぶ楽しさを知り、教員として学び続けることのできる探究力をもっている	
		教科教育	教科の学習指導に関わる理論と方法を熟知するとともに、実践力向上に努め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	教科の内容に関わる高度な専門的知識と教科教育学に基づく実践的知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる	
		複合領域	教科の枠を超えた食育・健康・環境・情報（ICT活用）等の複合領域について高度な知識と技能を有し、さまざまな視点から授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる	
	教育実践高度化	学校経営	学校経営	学校経営の基本枠組みと理論を理解し、学校経営における問題発見・課題形成ができ、学校の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
			教育行財政	教育行財政の基本法規や制度を理解し、教育委員会における問題発見・課題形成ができ、教育委員会の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
			理論と実践の融合	学校経営や教育委員会の事例から、成功要因を探り出し、学校や教育委員会に適用するための中範囲の理論化ができる。また、理論をもとにして、学校や教育委員会の改善策の具体化ができる
		授業実践開発	授業デザイン	理論と実践の事実に基づいて、カリキュラム、単元、授業の開発（デザイン）を行う力をもっている
			授業実践	授業実践についての高度な知識・技能に基づいて、同僚と協働して実践研究を推進する力をもっている
			授業改善	授業実践の分析・評価に基づいて、課題を発見し、それを解決する力をもっている
			ミドルリーダー	現職教員については、研修リーダーやメンターなど、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得る力をもっている
		生徒指導実践開発	包括的児童生徒支援に関する知識と理解	包括的児童生徒支援の各領域（生徒指導、教育相談、キャリア教育、道徳教育、学級経営、特別活動・地域連携）に関する知識と理解を十分に持っている
包括的児童生徒支援のリーダーとしての実践力			学校等において、包括的児童生徒支援を実践し、研修企画ができる	
包括的児童生徒支援の研究能力	学校等において、包括的児童生徒支援の各領域に関する実践研究を継続して行うことができる			
小学校教員養成特別	教科・領域の教育内容	小学校の教科・領域の教育内容の特質を知り、教員として研究対象とした教育内容について強靱な探究力をもって学び続けることができる		
	教科・領域の教育方法	小学校の教科・領域の指導と評価にかかる知見を身に付け、実践と省察を通してそれらの能力を高め続けることができる		
	教科・領域の教育内容と教科・領域の教育方法の融合	小学校の教科・領域の教育内容に関する高度な専門的知識と教科・領域の教育方法に関する知見をもとに、授業の内容と方法を開発・実践・省察していくことができる		

教員養成スタンダード(大学院)

【基礎部分】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻		
ふりがな		コース	教育コミュニケーションコース		
氏名		5領域	スタンダード		
			(上段) 学年当初の自己評価の数値を記入する (下段) 学年末の自己評価の数値を記入する できない : 1 少しできる : 2 ほぼできる : 3 十分できる : 4		
			1年次	2年次	3年次
学び続ける 教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる			
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる			
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる			
教師としての 基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる			
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている			
児童・生徒の理 解に基づく学 級経営・生徒指 導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる			
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる			
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に對して適切かつ柔軟に対応できる			
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる			
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる			
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる			
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる			
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる			
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている			
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している			

※ 以下に該当する場合は、チェック☑してください。

教員免許状を所有しておらず、かつ取得予定もない

【1年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【1年次修了時の振り返り】
【2年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【2年次修了時の振り返り】
【3年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【3年次修了時の振り返り】
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】
【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】
() () () () ()

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

教員養成スタンダード（大学院）

【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
1年次修了時の振り返り			

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

教員養成スタンダード（大学院）

【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
2年次修了時の振り返り			
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】			
<p>【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】</p> <p>() () () () ()</p>			

☆必要に応じて各記入欄の行を追加してください。本様式が2頁に渡っても差し支えありません。

【指導教員による総括コメント】

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

教職アドバンスプログラム (昼間のみの開講)

修士課程の大学院生(現職教員を除く)を対象に、実習を主体としたカリキュラムを通して、教員として必要な高度な専門性と実践的指導力の養成を目的としています。

●対象

大学院学校教育研究科(修士課程)の学生のうち、希望する学校種(小学校、中学校、高等学校のいずれか一つ)の1種免許状を取得済み、あるいは平成27年度中に取得見込みで、教員を志願する者(現職教員を除く)

●受講可能人数

20人(受講申請者の中から、選考により受講者を決定)

●履修方法

連携6大学が遠隔講義システムにより相互提供する授業科目「教職アドバンス科目群」から6単位以上(他の連携大学大学院の授業科目1科目2単位以上を含む)および、「教職アドバンス実習」4単位(事前・事後指導1単位を含む)を修得します。



1. 教職アドバンス実習

3週間に及ぶ大学院レベルの実習を通して、受講生は指導教員のアシスタントティーチャーとして、教職における職務内容の在り方を幅広く理解し、指導力の向上を目指します。

2. 連携6大学による教職アドバンス科目群

連携6大学が相互提供するプログラム科目群から、さまざまな授業科目を選択できます。

●授業科目例 ※平成26年度開設科目

教育コミュニケーション論 学級における人間関係の心理学 特別支援教育総論	兵庫教育大学
固体電気化学 代数幾何学	兵庫県立大学
人間形成論方法論I 人間形成論特殊講義II	神戸学院大学
家政教育学特論 臨床心理学特論Ia	神戸女子大学
教育心理学特論	神戸親和女子大学
教育思想史特論	武庫川女子大学



プログラム科目は遠隔講義システムを利用。
受講生はマイクを通して質問する



3. eポートフォリオの活用

eポートフォリオを活用して、教育研究活動の成果を蓄積したり、学びの振り返りを行ったりすることで自己の到達レベルを確認できます。その際、必要となるタブレット端末を受講期間中貸し出します。



eポートフォリオの画面

■プログラム修了にかかる修得単位数

教職アドバンス実習(4単位:事前・事後指導1単位を含む)	10単位以上
教職アドバンス科目群(教職アドバンス科目群から3科目6単位以上を修得)	

MA086001

教職アドバンス実習

昼間（プログラム）クラス

担当教員 長澤 憲保、大林 英夫、笹倉 政之、吉竹 主税、大久保 信三

単位数

開講学期 通年

単位区分

開講曜日時限 時間外

授業方法 講・演・実

標準履修年次 5年

備考

【授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)】

授業の目標：3週間の実習を通して、

①学部における教員免許状取得のための教育実習の経験を踏まえて、志望する学校の教育全般についてさらに実地に学び、教科指導、生徒指導、特別活動や道徳、総合的な学習の時間の指導等におけるより実践的な指導力・展開力の向上を図る。

②配属校における指導教員（以下「メンター」という。）の教育活動をアシスタント・ティーチャー（以下「AT」という。）として支援しながら、現場のニーズや課題に応じた特色ある教育実践がどのように行われているのかを理解する。

③上記の教育実践活動を通じて、本学の授業科目担当教員（以下「大学実習指導教員」という。）の指導の下、自らの実習課題の設定及び解決に向けて、主体的、協同的に取り組むことができるようになる。

期待される学習効果：教員免許状取得のための教育実習の経験を踏まえて、自らが課題意識を持ちながら実習に参加し、その経験の省察を通して、教職における職務内容や学校運営のあり方等を幅広く理解し、教職専門性と実践的指導力の向上を目指す。

【授業の内容・計画】

本科目は、主として6月～11月（4月～7月）の活動期間中に行った以下の3つの活動（①～③）を評価し、単位認定を行う。

なお、主な実施日時等は、掲示及び教職アドバンスプログラム受講者専用のeポートフォリオサイトにて周知する。

①事前・事後指導、リフレクションセミナー、訪問指導、グループ演習、実習成果発表会（15時間）

・事前指導：4時間：6月～9月（4月）、本学で行う実習内容等の説明会（実習心得等の指導含む）2時間と、実習校との事前打合せ（実習計画、服務、学校紹介等）2時間を行う。

・リフレクションセミナー：6時間：実習期間中（3週間×2時間（原則として課題研究が行われる金曜日とする。））に大学実習指導教員が実習生と共に実習の成果を省察し、指導を行う。

・訪問指導：1時間：大学実習指導教員が実習校を訪問し、実習生の取組状況について、メンター、実習生との面談による指導・助言を行う。（16時～17時を基本とする。教科指導や研究授業に伴う訪問は時間設定が異なる。日程等の調整は実習生が行う。）

・事後指導、グループ演習及び実習成果発表会：4時間：12月以降：大学実習指導教員による実習成果を踏まえた事後指導（実習の反省と今後の課題についての指導）と実習生同士によるグループワークの振り返りを行った後、各実習生による実習成果発表会を行う。

②指定学校での3週間の実習（3単位：週4日1単位×3週間）

・第1週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導・教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に観察）しながら、教育実践を理解する。

・第2週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導、教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に補助）しながら、教育実践を理解するとともに自らの実習課題の解決に向けた活動を行う。

・第3週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導、教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に補助）しながら、教育実践を理解するとともに自らの実習課題の解決に向けた活動を行う。

③「実習ノート等」の提出

実習生は、実習終了後2週間以内に「実習ノート等」を大学実習指導教員に提出しなければならない。

<留意事項>

①実習受入校ごとに支援の場面・方法、期間等に異なりがある。事前指導等での説明を確実に記録し、適切に対応すること。

②各実習受入校との連絡を密にし、無理のない活動計画を立て、誠実な取り組みを継続すること。

【成績評価の方法・基準等】

＜実習校の実習の評価＞（50%、：評価票の7つの観点：「教職意識」、「児童生徒理解力」、「コミュニケーション力」、「計画力・教材研究力」、「学習指導力」、「評価力」、「実習記録」）及び＜大学実習指導教員の事前・事後指導等の評価＞（50%：評価票の5つの観点（各項目）：「リフレクションセミナーへの参加態度」、「教職意識・教員としての成長度」、「実習生の実習成果」、「実習記録」、「総括レポート」）に基づいて、教職アドバンスプログラム運営室実習専門部会で総合的に成績評価を行う。

【テキスト・教材・参考書等】

- ・大学として、特に準備を求めるものはない。
- ・各実習受け入れ校の指示に従うこと。

【事前事後学修】

【その他】

- ①本科目履修のための交通費や食費等は履修者の自己負担となる。
- ②本科目での活動中の事故等においては、他の教育実習と同様に、入学時に加入した「学生教育研究災害障害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」の適用を受ける。詳細について、約款等をよく確認しておくこと。

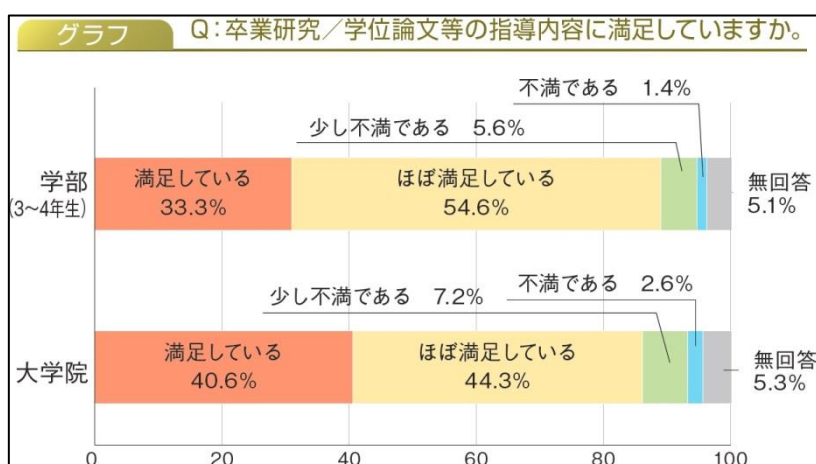
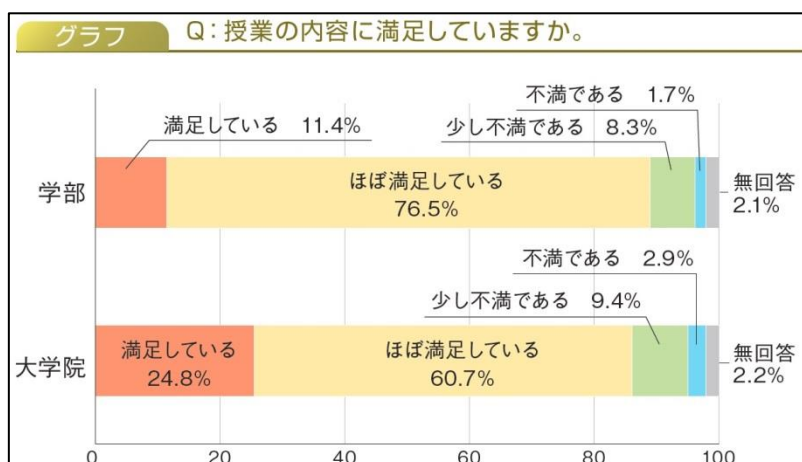
ラーニングコモنزの設置状況

学生の自主的・主体的な学びを促進し、基礎的な力の修得をさらに確実なものとするため、大学の各エリア・施設を機能別にゾーニングしラーニングコモنزとして整備した。

	施設名	主な用途	席数	設備
総合研究棟 1階	オープンセミナールーム	グループ学習・自習	30席	移動式ホワイトボード4台 70インチタッチディスプレイ1台
総合研究棟 2階	教職キャリア開発センター	主として教員採用試験の グループ学習	18席	テレビ・ブルーレイディスクプレイヤー各2台 パソコン・スキャナー各6台 プリンター1台
附属図書館 1階	PAO	グループ学習・自習	71席	パソコン20台、プリンター2台 プロジェクター・スクリーン1式
附属図書館 地階	グループラボ1	グループ学習	8席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
	グループラボ2	グループ学習	8席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
	グループラボ3	グループ学習	6席	テレビ1台、メディアプレイヤー1式
大学会館 1階	アクティブラーニングスタジオ	グループ学習・授業	27席	70インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台
	マイクロティーチングスタジオ1	グループ学習・授業	28席	70インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台
	マイクロティーチングスタジオ2	グループ学習・授業	18席	60インチタッチディスプレイ1台 ブルーレイディスクプレイヤー1台 編集用パソコン1台
大学会館 3階	ボランティアステーション	ボランティア活動の情報 提供、促進・支援	12席	パソコン3台 プリンター1台

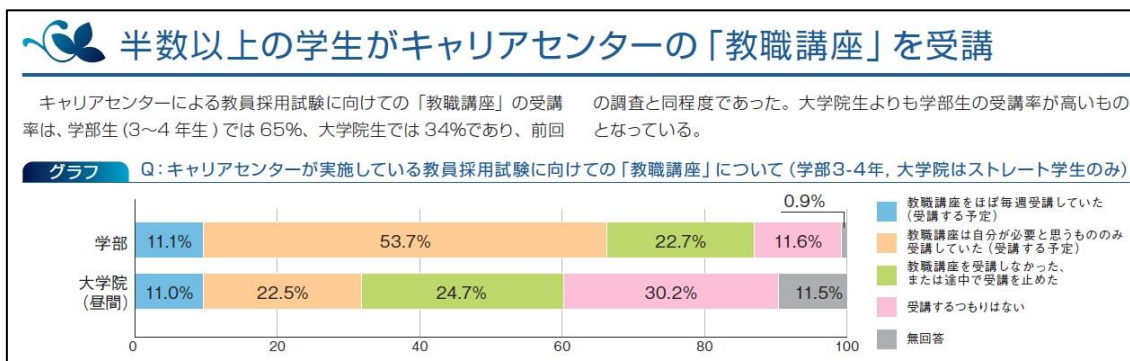
席数合計：226席（学生6.5人に1席（学生数1,479人(27.5.1)）

授業内容や卒業研究の指導内容についての満足度



教職キャリア開発センターの開講講座例

「教職講座」受講状況



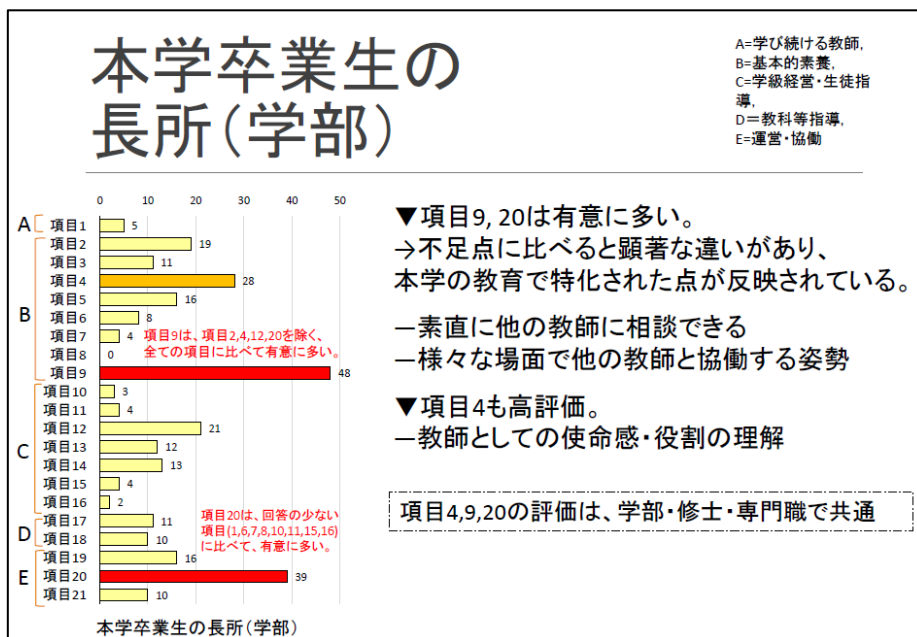
27年度キャリアセンター教員採用試験対策講座

講座名	開催回数	参加人数(延べ人数)
教職教養対策学習会	10	152 ※大学院学生も含む
春休み特別講座(教員採用試験対策)	12	443
筆記基礎講座	5	198
兵庫県の過去問で基礎から学ぶ教職教養学習会	2	34
計	29	827

27年度キャリアデザイン講座

シリーズ名	講座名	参加人数
就活・教採準備講座	第一印象で差がつく好感度アップ講座	18
	CA(キャビンアテンダント)から学ぶ就活・教員採用試験にも役立つマナー講習	10
教員になるための準備講座	子どもの心をつかむ楽しいゲームいろいろ	22
	いじめと、その背景にある自尊感情	27
	あの子の眼を輝かす授業展開	27
	家庭と心をつなぐ保護者対応	35
	アクティブ・ラーニング入門(仮題)	16
大学生基礎力講座	CA(キャビンアテンダント)から学ぶコミュニケーションセミナー(話すスキル編)	11
特別講座	森・川・海つながるのち〜大震災を越えて〜	47
	教員のためのメンタルヘルズ講座 ストレスをため込まないための「ストレス=日決算主義のすすめ」	22
	SNSやスマホでの子どものトラブル・教員のトラブルを未然に防止する講座 〜教員になってからではおしまい!! SNSやスマホでのトラブルから子どもと自分を守る〜	22
ようこそ先輩	体験から学びを得る“リフレクション” 〜懐かしのレゴブロックを使って対話してみよう〜	14
	読み聞かせの実践指導	10
計		281

卒業生・修了生調査(H24～H26) —解析報告—



項目4 教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している

項目9 素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる

項目20 様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている